

# 同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

3

2015  
MARCH

山形県中小企業家同友会  
月刊同友  
やまがた



## 2015 新春交流会

人間尊重経営が持続できる企業に

### 記念講演

誰もが共に育ちあう共生社会をつくる  
～人の個性を生かす経営を自社から地域に広げて～

第31回 定時総会のご案内

そうだ、  
経営を楽しもう。  
だから、  
本気で向きあおう。

2014年度スローガン

# 人間尊重経営が持続できる企業に



山形同友会は、1月23日、山形市の山形国際ホテルにて、2015新春交流会を開催しました。来賓の方をはじめ、全支部の会員企業、ゲスト、行政職員、金融機関、大学生など170名が参加。

「地域に根差し、地域と共に育つ企業づくりを学び合い、交流を深める」を開催目的とし、京都同友会の(株)思風都代表取締役会長 土井善子氏が、「誰もが共に育ちあう共生社会をつくる～人の個性を生かす経営を自社から地域に広げて～」と題して講演。

記念講演後のグループ討論では、「地域に根差す企業としての、自社の使命に気付いていますか。～何を以って、何を成すのか～」をテーマに、「自社の地域における使命」を考え合い、これから1年間の経営の意欲を高める新春に相応しい学びとなりました。

### 出会いと思いが一主婦をうごかした

土井氏は、近所の大学生たちの食生活に不安をいただいたのをきっかけに、一主婦からレストランを起業。10年後、日本の変わりゆく食生活からくる様々な病気に対し、「食」の大切さを痛感。移転し、京都で初となるシーフードレストランを開店します。

そして、そこで出会ったアトピーの子供をもつ親子の出会いが、土井会長の考え方、生き方を大きく変えます。「他所では食べられない人に来てもらうための料理」を専門医と相談しながら提供し、関西圏全域からお客様が来る店となりました。

### 地域における中小企業の役割とは

それから10年後、また転機が訪れます。閉店の危機に見舞われますが、お客様を中心に「新店舗を作る会」が発足し、現在の店舗が完成。メンバーからの「この店は残さないといけない店」の言葉に、地域に必要とされる企業の責任を実感。更に同友会での学びが根幹となり、障害者雇用など人間尊重経営を実践していきます。



土井会長は、人間尊重経営をするには労使見解が大切で、それを支えるのは自主・民主・連帯の深い意味の「人間らしく生きる・生きる・くらしを守る」ですと述べます。

今後、迎える少子高齢化や就労困難者雇用などの様々な地域の問題を、中小企業が如何に解決していくか。またそれを実践するために労使見解の理解を更に深め、持続可能な企業となるために「人づくり」「地域づくり」が大切であることを学びました。



# 誰もが共に育ちあう共生社会をつくる

～人の個性を生かす経営を自社から地域に広げて～

講師：(有)思風都 代表取締役会長 土井善子氏

(中小企業家同友会全国協議会障害者問題委員会副委員長)



京都から参りました土井です。山形は生まれて初めて、寒さが厳しいかと思いましたが、とても環境の良い所ですね。ちょうど1年前に山形から弊社に見学に来ていただいた際、山形にも是非来てくださいという話になり、今日は喜んで参りました。

### 創業時の思い

最初の店を開店してから約39年になりますが、当時私は一主婦でした。起業した理由は、住まいの近くに京都産業大学があり、下宿もたくさんありました。多くの学生と出会い親しくなっていく中で、私も子育てをしていたこともあり、この学生たちが親元を離れて毎日何を食べているかが気になりました。聞いてみたところ、お菓子やバイト先での軽食など、誰に聞いてもちゃんとしたものを食べていませんでした。私は、将来の日本を背負ってくれる学生たちが、この食生活で良いのか不安になり、自宅を改装し学生のためのレストランを始めることにしました。

### 生き方、考え方を大きく変えた出会い

学生たちを相手に約10年間商売をしました。その頃の日本は欧米型の食生活に変わってきていて、世間では成人病や高血圧、糖尿病などが騒がれるようになり、これからは食が大切にされる時代が来るだろうと思っていました。そこで「若者にもっと魚を食べてもらえるレストランを」との思いから、店を移転し京都で初めてのシーフードレストランを開店しました。

開店当時、「シーフード」という言葉は出回っておらず、まだまだお客様も少ない状態でした。ですがあえてシーフード(魚)にこだわり、営業をしていると、あるお母さんが子供を連れて訪ねてきました。そのお母さん

は「うちの子に何か食べさせるものはないでしょうか」と言いました。飽食の時代にどうしたことなのかと聞くと、「外食をしたいのですが、アトピーで食べられるものがありません。自身の魚なら何とか食べられるのではないかと」のことでした。私は、「この親子をなんとかしてあげたい」と引き受けました。

その子がお店に入って来た時は、不安でいっぱいな顔をしていました。私は専門医とも相談しながら料理を作り、新幹線のプレートに盛り付け提供しました。ですが子供はすぐに手を付けず、その新幹線のプレートとお母さんの顔を交互に何回も見ていました。お母さんが「ここのは大丈夫、食べていいよ」と言うと、やっと料理を口にし、とても嬉しそうな顔をして食べていました。その時に、私はこの子たちのために食を提供しなければならぬと思い、試行錯誤をしながら小麦・大豆・牛乳・卵の4大アレルギーを除去し、子供も喜ぶような「アトピー子ランチ」を発売しました。

この親子との出会いがきっかけで、「他所では食べられない人に来てもらうための料理」を作りました。京都では初めての取り組みだったので、アトピーさんを中心に評判になり、京都だけではなく和歌山、大阪、神戸などの関西圏からたくさん来ていただき、それに伴って一般のお客さんも増え忙しくなりました。すると社員が、「この子たちを引き受けると、一人ずつフライパンやまな板、包丁を変える必要があり、忙しくてやってられません」と言うてきました。私は「子供たちが、あんなに嬉しそうな顔をして食べられるのは、ここの店しかないよ」と言うと、なんとかみんなが理解してくれました。

### 手探りで学んだ同友会の学び

店も軌道に乗り、社員も増えてきましたが、経営のことは何もわからないままでした。ある人に「もっとちゃんと経営の勉強をしなければいけないよ」と、同友会に誘われ入会しました。同友会では「理念・指針書・労使見解・人間尊重」など、わからない言葉がたくさんありました。ですが、素直に学ぶことが今の私にできることだと心に決め、良いと言われた行事には全て参加し、学んだことを会社に持ち帰り社員に伝えました。

また、経営には理念が必要だと言われ、経営指針セミ

ナーも受講しました。そこでは、「いい加減な経営をしていたら目の前でアレルギーが発症してしまう」「何のためにその料理を作るのか?」「何のためにやろうと思ったのか?」「思いをどう社員と共有していくのか?」など、厳しい助言がありました。私は、なぜアトピーさんと向き合ったのかを考え、自分の思いを全部書き出しました。それが今の理念の根底になりました。

### お客様を中心とした「新店舗を作る会」結成

シーフードレストランをはじめから10年、あることがきっかけで移転せざるをえなくなりました。その時には辞めることも選択肢にありましたが、お客様を中心に「新店舗を作る会」ができました。その会には、財務委員会・建築委員会・会員委員会があり、メンバー全員が手弁当で、店探しから計画をしてくれました。

作る会ができてから1年後、金閣寺のそばに気に入った土地を見つけましたが、そこは京都で一番のお金持ちが持ち主で、一般の人には貸さないと有名な方の土地でした。ですがたまたまメンバーの一人が息子さんと知り合いで、お会いして私の思いを伝えたところ、貸していただけることになりました。その土地には70坪の店を建てました。これも新店舗をつくる会のみなさんが全部手配をしてくれて、アトピーさんやアレルギーの人も大丈夫な建材を使用して、現在の店舗が完成しました。私はメンバーの方に「なんでみんな応援してくれるのですか」と聞きました。すると、「この店は残さないといけない店だよ」「自分たちの夢もここに乘せているんだ」と言っていただきました。本当に感謝しきれない気持ちでいっぱいになりました。

新しい店が開店するとき法人にして、お客様の健康に繋がる店づくりを理念に掲げました。その当時、キレる子供が増え、「不登校」・「引きこもり」などの言葉も出て、親子関係がうまくとれない家庭が増えていました。時代背景として、女性が積極的に働く様になって、お母さんが晩御飯を作れなくなったからではないかと思えます。私は「心のバランス」と「食のバランス」のとれた料理を提供しようと、ランチバイキングを考案しました。



国では健康のために1日20品目を食べようと言われていましたが、ランチバイキングでは35品目提供しました。35品もあれば、大豆や卵などを使わない料理もあるので、自分に合ったものを食べていただけます。それでも食事制限のある子には、別メニューで作りました。お客様からは「料理が優しい店」と言ってもらえるようになり、新しい店舗も軌道に乗りました。

現在、レストラン・ペットサロン・ペットカフェを経営しております。18年前に法人を立ち上げて、そこから10年で自分が作った借金がなくなったので、次の世代に任せることにしました。本体のレストランは料理好きな社員、ペットカフェとペットサロンは娘ともう一人の社員、3人がそれぞれの店舗で取締役として切磋琢磨しています。また、この3店舗は基本理念を同じとし経営しています。

### 就労困難者の働く場所をつくる

京都同友会の中に障害者問題委員会があり、なぜ同友会に障害者の委員会があるのか疑問を持ち参加してみました。そこは障害者を取り巻く諸問題を考える委員会で、端的に言えば地域の問題を捉え、同友会でどう解決するかを考える委員会でした。参加した当時は、まず知ることから始めようと、障害者の施設と交流をしていました。施設の人たちをずっと見ていると、この人たちの力は十分社会で活かせるのではないかと思うようになりました。障害者は重度軽度関係なく、封筒入れ・封筒貼り・お菓子詰め・掃除の仕事しかなく、私はその中にレストランの仕事を入れたいと思っていた矢先、ちょうど話が舞い込んできました。

金閣寺の山の上に原谷という地区があります。戦後の開拓村で、四、五十年前に京都で初めての特別老人ホームができて栄えてきた所です。京都の町にも近く便利なのですが、山を越えなければならぬので土地が安く、西陣の機織り職人が移り住み、1600所帯4500人が暮らす町になりました。

その地域の、ある老人施設の中にレストランがありました。そこは何回やってもうまいかない場所でしたが、施設の職員さんや地域の人々の昼食の場でもあるので、何とかしてほしいとのことでした。周りには大学施設や病院や会社などがあります。私はビジネスチャンスを感じ、ここで就労支援の目的で障害者雇用に取り組むことにしました。現在は別法人を立ち上げて10名の障害者が働き、半分は思風都のレストランにきて仕事をしています。障害者には京都の最低賃金789円を保障しています。



### 人間尊重経営への気づき

同友会に入って、障害者問題委員会に参加し、同友会の三つの目的とは人間尊重経営の実践をすることだと気が付きました。また、人間尊重の実践の下に労使見解がありました。人間尊重を実現するには、社員と同じ方向を向かなければできませんし、この企業は何のためにあるのかを確認し合うことで「社員の誇り」が生まれてきます。自分たちはお金ではなく、地域から必要とされる企業になる。それは誰もが安心して働ける企業づくりをして、社員みんながその一員であることが労使見解の根幹です。またその下には自主・民主・連帯があります。自主・民主・連帯の深い意味として、「個人としての尊厳性を尊重されなければならない」「命には重い軽いはない」とありますが、障害者と向き合っ初めて理解できました。

一つの例として聴覚障害の方が入社したとき、仕事を伝えるためにきめ細かいやり取りが必要になりました。そこで社員みんなが気づいたのですが、今までの仕事のやり方では、障害者だけではなくアルバイトやパート、新入社員にも伝わりにくいとわかりました。そこから、障害者と向き合ったときに、字が読めない人には、字が読めなくても通じる方法を考える。計算ができない人は計算ができなくても、他のできることを考えて実践する。「こういう人」としてまず認め、それを尊重し実践していくことが「人間尊重の経営」の実践なのだ気づきました。

日々できることを探していく、できないことを探すのではなく、どうしたらできるのかを探していくことが、障害がある人にもない人にもすごく便利だとわかりました。

### 中小企業の役割

自主・民主・連帯の深い意味としての、「人間らしく生きる・生きる・くらしを守る」の3つを、企業経営に入れると社員にも意味が伝わりやすくなりました。経営者だけが3つの目的を実践すればいいのではなく、社会の問題を企業に取り入れて、社員と一緒に解決して、地域に返していく取り組みが大切です。また、これからの10年後、

少子高齢化になるのは絶対です。中小企業は地域の人を育て、生かしていかなければなりません。人を生かす経営とは自分の社員だけでなく、地域で暮らす人々を生かすことに目を向けないと、持続可能な企業にはならないと思います。10年後に自分の企業や地域を振り返った時に、どのくらい人がいるでしょうか？人がいないと経営は成り立ちません。「くらしを守り、人間らしくみんなが生きていける世の中の提案ができる企業になる」、これは一社ではできないので、仲間が集まって取り組むことが同友会の役割だと思います。

私のきっかけはアトピーさんと知り合い、食を変えていくお手伝いをし、障害者と一緒に働くことで、地域を変えるお手伝いができているのではないかと思います。今、思風都では多様な人が働いています。その中に6年目になる聴覚障害の社員がいます。最初は話すことを嫌がっていましたが、仕事では忙しくて手話や筆談をしている暇もないので、だんだん声が出るようになってきましたし、今は何を言っているのか聞き取れるようになってきました。

その子の家族は、お父さんもお母さんも全員聴覚障害をもっていて、家族の中でその子が唯一働いていました。初めて来た時に夢は何かと聞いたところ、「夢なんてなんにもない」と言っていました。ですが、仕事をやりはじめ、いろんなことを覚え挑戦し、給料をもらい貯金もできるようになりました。今では「車がほしい。車の免許をとって、親と一緒に旅行に行きたい」と夢をもつことができ、その夢が現実に近い近づいています。そのことが「人間らしく生きる・地域で生きる・くらしを守る」ということではないかなと、その子を通じて思います。

4万社ある同友会の会員一人ずつが、障害者だけではなく、女性や高齢者を含めての就労が困難な人々を雇い入れる企業になれば、同友会はあてにされる団体になると思います。

そのためには人間尊重の経営をし、その下の労使見解を理解し社員と一緒に取り組む。またその下に、自主・民主・連帯の精神があることを、今一度考えていただければと思います。



# 山形同友会創立30周年！ より地域に必要な存在へ！！

日時 2015年 **4月23日**(木)  
13時開会

第1部	定時総会	13:00~14:30
第2部	記念講演	14:40~16:35
	グループ討論	16:50~18:45
第3部	懇親会	19:00~20:30

会場 **ホテルメトロポリタン山形** 山形市香澄町1-1-1  
TEL023-628-1111

参加費:第1部/無料 第2部/2,000円 第3部/5,000円

記念  
講演

## 変革と承継 ~何を託し、何を受け継ぐのか~

講師：(株)伸電 取締役相談役 原田 誠 氏  
代表取締役 佐藤 弘樹 氏  
(宮城同友会)

### ごあいさつ

第31回定時総会実行委員長 伊藤 誠



この度、第31回定時総会の実行委員長を仰せつかっております、城北電気工事株式会社の伊藤と申します。

今年は、山形同友会創立30周年を迎える節目の年であります。これまでの30年を振り返り、これからの40年、50年へと承継していくための礎となる定時総会にできるように、精一杯努めさせていただきます。

今回の記念講演は、「変革と承継」というテーマで、宮城同友会より(株)伸電の創設者である原田誠相談役と二代目となる佐藤弘樹社長をお招きしてご講演頂きます。

我々中小企業にとって、事業承継は企業を存続させるためには避けて通れない大きな課題です。中小企業庁のアンケートでは、将来の企業経営に明るい見通しを持つことが出来ずに、廃業もやむを得ないと考えている経営者が多くいます。そして、その経営者の約7割が事業承継を検討することなく、「廃業やむなし」という考えに至っているという現実があります。

会員の皆様の中でも、事業承継について、すでに準備を進めている方や、一人で悩まれ、判断しようとしている方、その大変さに耳をふさいでおられる方など、様々いらっしゃると思います。

(株)伸電様の次世代の人材の成長を通じて事業を「変革」させ、「承継」することで、企業の永続と発展につなげている実践事例から、事業承継の本質を学び、創業者・後継者・社員お互いの立場から考える良い機会になればと思っています。

そして、参加者全員が自社の永続・発展に向けて、明るい未来を描けるそんな定時総会を目指します。また社員共育としても大変学びが多い講演ですので、是非社員さんもお誘い合わせの上、ご参加頂けますようお願い申し上げます。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

# 3月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

## さくらんぼ支部

### デザインマインドで、マネジメント・経営を楽しむ

2015.3.12(木)18:30~21:00

場所: タントクルセンター

東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

報告者: (株)フロッツ 取締役 五十嵐久仁子氏

広告デザイナーとして、仙台のデザイン会社に5年間勤務し、その後、田宮印刷(仙台支店)に契約社員として入社します。しかし、業界はバブルがはじけ急降下、会社も冬の時代に突入り、社内では抜本的改善が始まりました。

仙台で管理職に就いた後、30名の社員がいるデザイン部門統括として本社(山形)勤務に。本社では、部下に対して「あの人達」と、お荷物的な部署に見られている現実が待っていました。デザイナーにも「時間単価」という数値指標を取り入れるなど、社員一人ひとりと向き合い、意識改革、組織改革、管理職育成に取り組みます。

やっと組織らしくなった2年後、子会社独立の話があり「不採算部門のリストラか」と激震が走ります。社員の不安払拭のため、田宮の前頭業になる想いが込められた、FLOT(Frontal Lobe of Tamiya)が誕生します。斬新な委員会の活動にも挑戦し、会社づくりに直接参加できる楽しさを幹部社員と一緒に体感しています。

お客様の価値を創造する仕事に誇りを持ち、「FLOTで働けてよかった」といえる会社、自己成長を楽しめる会社にしたいと語る五十嵐さんの報告です。

社員さんとの丁寧な関わり方やユニークな委員会の取り組みは必見です。

## 庄内支部

### 私が経営理念で失ったもの

2015.3.24(火) 18:30~

場所: 酒田勤労者福祉センター 第二・三研修室

酒田市みどり町19-10 ☎0234-26-2644

報告者: (有)寝装こでら 代表取締役社長 小寺祐也氏

10年前、経営者でもある父親が急に他界し、何の準備もなく会社を継ぐことになりました。リーダー不在同然となり方針を示せない会社は、当然のように混乱しはじめます。

悩みの中でたどり着いた自分の答えは、「経営理念を作ろう」でした。同友会に入会、第16期経営指針セミナーを受講し、指針書を作成。経営者としての不足している多くの点に気づかされ、自分を見直し、会社の「大変革」を実行します。指針書に基づいた経営に取り組み、方向がはっきりした会社の業績は見事に回復、社内のムードも一変します。

しかし「大変革」の裏には、新たな決断により手放した多くの事がありました。経営理念を作り、新たな道を歩みだした当社のすべてを報告させていただきます。

## 山形支部・寒河江支部合同例会

### 外形標準課税のあなたの会社への影響

2015.3.26(木) 18:30~

場所: 山形ビッグウイング 4階 中会議室

山形市平久保100 ☎023-635-3030

講師: 立教大学 経済学部教授 山口義行氏

参加費: 1,000円

法人税改革に伴う外形標準課税の適用拡大について、同友会では反対を表明し、署名活動などを行っています。27年度は「慎重に検討を行う」ということで、見送りになりましたが、今後も注視する必要があります。会内には「外形標準課税とは何か?」「法人税が下がるわけだし、実際はどうなの?」という声もあります。

まずは、私たちがこの課題を正しく理解するため、学習会を行います。講師には、立教大学経済学部教授 山口義行氏をお迎えし、マクロな視点から演習を通して実際に適用された場合の自社への影響まで、分かりやすく講義していただきます。

必見です。お誘い合わせの上、ご参加ください。

\*当日は資本金額、総売上額、報酬総額、経常利益、納税額で演習を行いますので、電卓と合わせてご準備下さい。

## 置賜支部

### 管理職としてのリーダーシップとコミュニケーションづくり

2015.3.27(金)18:30~

場所: 伝国の社

米沢市丸の内1-2-1 ☎0238-26-8000

報告者: (株)セロン東北米沢支社 執行役員

置賜地区統括部長 高橋一弘氏

警備業に携わって17年、技術畑一筋だった高橋氏は、置賜地区営業課長を経て平成23年に置賜地区統括部長になります。しかし、数名の社員が退職し、大変な状況が待っていました。

重責を感じながら置賜地区3営業所63名を少しずつまとめていきたく、一人ひとりをよく見ることから始めました。会社の方針を伝達するのが管理職の役割として、自ら行動と実践で示し、部下には具体的に噛み砕いて説明することを心がけてきました。

ベクトルを合わせるため、社員のモチベーションと考え方を確認しながら歩む高橋氏の実践報告をもとに、辞めない組織づくり、社員との関係づくりについて考え合います。

# 第11回理事会報告

◆日時:2015年2月13日(金)14:00~16:15 ◆会場:山形県産業創造支援センター ◆議長:後藤副代表理事  
◆出席:青柳、後藤、齋藤、阿部(秀)、阿部(和)、佐藤(一)、佐藤(松)、安藤、奥山、玉津、小林、越前屋、伊藤、川合(敬称略)伊藤(由)、矢作、(事務局)15名

## ■開会挨拶(青柳副代表理事)

### ■報告事項

- 1)中同協 4委員会合同会議(2/4~5)の報告(阿部理事)
- 2)連合山形との意見交換会(2/4)(齋藤専務理事)
- 3)県中小企業振興課との意見交換会(2/6)(越前屋理事)
- 4)2015年1月月次決算報告・未収金状況(伊藤事務局長)

### ■承認事項:4名入会2名退会 2/13現在会員数 429名

### ■確認事項

- 1)理事会運営規程改正(案)、役員選考規程(案)の最終確認(青柳副代表理事)  
＊運用は、4/23の定時総会後の第1回理事会後の4/24からとなります。

### ■討議事項

#### 議題1:2015年新春交流会のまとめ

実行委員長の阿部秀顕氏より、1月に開催された、2015新春交流会の成果と特徴の報告がありました。

「同友会で学び、社会問題まで考えるようになった」と語る土井会長の実践報告から、地域の問題を解決できるのは中小企業であることに確信し、「人を生かす経営」の根底に、「個人・生命・人間の社会性の尊厳や尊重」が重要であることを学んだなど5つの点でまとめました。収支報告書も承認されました。

#### 議題2:会費見直しの件

青柳副代表理事より、会費見直しについて提案があり、各支部幹事会、委員会でも話しあうことになり、一般会員への告知、改定時期をも含めて、3月理事会で再検討することになりました。

#### 議題3:規約改正(案)の件

青柳副代表理事より提案があり、第7条は、会費改定(案)と合わせて、3月理事会で再検討することになりました。

第8条(退会・除籍)第2項の文面を下記のように加筆することになりました。理事会の決定により制裁を課すことがあります。

→理事会の決定により、除籍等の制裁を課すことがあります。(加筆)

#### 議題4:定時総会議事タイムスケジュールと役割分担の件

青柳副代表理事より提案があり、下記のように決まりました。

- 1)総会議案数の関係で、総会時間を30分増やし、開会時間を午後1時にする決まりました。
- 2)役割分担として、議長(案)に奥山正樹氏が決まり、議案提案者は、常任理事会で検討することとなりました。

#### 議題5:第31回定時総会の件

実行委員長の伊藤理事より提案があり、開会時間の変更を含めて開催要項(第2案)、記念講演のテーマ、学びのポイント、予算(第2案)が提案され、承認されました。

スローガン「山形同友会設立30周年!・・・」を、「創立」に修正することが決まりました。

#### 議題6:議案書(案)について

2014年度活動のまとめ(案)2015年度活動方針(案)について、第2次中期ビジョンの進捗状況、総括することが提案され、3月理事会で再検討することになりました。

新年度役員候補(案)について、組織委員長について常任理事会で検討することになりました。

#### 議題7:役員選考委員の選出の件

常任理事(1名)、山形(1名)、寒河江(1名)、さくらんぼ(1名)、置賜(1名)、庄内(1名)より、2月中に役員選考委員の選出をお願いすることが決まりました。

#### 議題8:第3回増強月間の取り組みについて

組織委員長の安藤理事より、各支部で、32名の入会対象者の方に、会のお誘いと声かけなどの取り組みがされ、4名の入会につながったと報告されました。引き続き、第3回増強月間(2月)の協力要請がありました。

新庄最上支部立ちあげの進捗状況について、入会者が現在5名(入会申し込み書受理)、入会予定者があと14名になっていることが報告され、2/19(木)12:00~、世話人の方、会員予定者の方と「新庄最上支部設立準備会」を開催することが報告されました。

#### 議題9:30周年記念事業の件

菅原理事より提案があり下記のとおり決定しました。

- 1)開催意義 第3項の組織目標「500名」について、第2次中期ビジョンの進捗状況の確認と会全体の組織戦略、2015年度の組織委員会の体制を含めて再検討することとなりました。

- 2)実行委員会体制について

2/13日現在の実行委員が紹介され承認されました。

2/20(金)、16:30~18:00、山形テルサ 特別会議室にて、第1回実行委員会を開催します。

### ■経営体験報告

- 報告:城北電気工事(株) 専務取締役 伊藤誠氏(2010年入会)  
座長:菅原茂秋氏

### ■その他

- 1)第45回中小企業問題全国研究会(3/5~6 神奈川)の件

参加者:西塔氏、奥山氏、金田氏、後藤氏、菅原氏、小川氏、佐藤啓氏、庄司氏、鏡氏、佐藤(弘)氏、事務局矢作(11名)

- 2)外形標準課税学習会の案内

●日時:3月26日(木)18:30~21:00

●会場:山形ビッグウイング 4F 中会議室

●講師:立教大学 教授 山口義行氏

●テーマ:外形標準課税導入の中小企業への影響(仮称)

＊座長:青柳等氏、室長:後藤智樹氏

- 3)第3回東日本大震災復興シンポジウム(3/26~27 in宮城)

- 4)第12回理事会日程

●日時:3月11日(水)午後2時~午後4時

●会場:ビッグウイング 403会議室

●議題:第31回定時総会関連

①役員体制

②2015年度予算編成

③その他

### ■閉会挨拶(越前屋理事)

## 新会員紹介

### ◎中澤 亮氏

サン設備工業(株) 代表取締役  
業種 管工事業  
山形支部

### ◎土田 一成氏

土田一成行政書士事務所  
業種 行政書士及び税理士業務  
置賜支部

### ◎鈴木 良彦氏

(株)和光 代表取締役  
業種 クリーニング業  
山形支部

### ◎石澤 成新氏

(株)バオウ 代表取締役  
業種 冷凍餃子の販売  
さくらんぼ支部

### 支部・会員名・企業名・役職変更

- (株)王様の焼肉(寒河江支部) 代表取締役 黒沼 望氏  
⇒ 黒沼畜産(株) に変更

同友やまがた3月号(2015年3月1日発行/通巻264号)

From Editor

★2015年の干支は羊。羊は中国では食用として大切な家畜とされ、優しく堂々としていることから羊の下に「大」を付け、美しいとなったともいわれるが、ある方に、羊年はききな臭い年だと指摘された。学徒出陣があった1943年(昭和18年)がそうだった。そして、1月にシリアで起きた日本人質事件。世界中で生還を祈ったが、悲惨な結果となり、祈りは怒りと悲しみへ変わった。今なお地球上で行われている戦闘や戦争をやめてほしいと願わずにはいられない。★1月の地元紙に掲載された、今年100歳になるジャーナリストむのたけじ氏の記事が気になる。「今の日本は戦争の匂いがプンプンする。人類の三大敵は病気と貧困と戦争。戦争をやめ、そのエネル

ギーと金を回せば病気と貧困を解決できる。それがなぜできないのか」と。★また、著書でも、日本はどうなっていくのか、世界はどうなっていくのか。唯一の被爆国が枕詞になっていないか。ヒロシマ・ナガサキの誓いは忘れられていないかと、このきな臭い時代に警鐘を鳴らす。★同友会の第三の目的により経営環境をめざすが掲げられ、その中で、日本経済の自主的・平和的な繁栄を謳っている。先人たちがどんな歴史的な背景のなかからこれを掲げたかを探ってみよう。今年、戦後70年。枕詞とならぬよう、そして言い続けられるよう、歴史を振り返り、未来を描きたい。迷彩柄の服が日常に溶け込んでいることに違和感を感じる今日この頃。(由)



“知り合い、学び合い、援け合い”  
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号  
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583  
URL:<http://yamagata.doyu.jp/> E-mail:[info@yamagata-doyu.jp](mailto:info@yamagata-doyu.jp)